

# 速報 第125回定時代議員会・平成18年定時総会

- 次期日医会長候補に唐澤祥人東京都医師会長の推薦を決定
- 17年度補正予算、18年度活動方針・予算等12議案を可決

標記定時代議員会を去る3月12(日)午前10時から当医師会館8階会議室で開催した。

飯塚会長は挨拶の中で、議案の慎重審議のお願いの他に、昨年末に医療制度改革大綱が閣議決定され、従来にない大幅なダウンを伴う診療報酬改定が行われたこと、今国会には大綱に基づき健保法・医療法の一部改正法案が提案され3月末には本格審議が始まること、介護療養型医療施設の廃止の方針が固まったこと等の問題山積の中、日医が全くの「蚊帳の外」に置かれた状況にあり、某新聞に掲載された風刺漫画の「無抵抗症候群」そのものである。これら一連の問題に対して的確な判断と迅速な決断、適正に実行力を行使できる人物こそがリーダーの資格があると断じた。そして、日医会長選挙に触れ、4月の日医定例代議員会では、人格・識見から唐澤祥人候補を推薦したいこと、あわせてブロック理事として小職、裁定委員として樋口忠先生を推薦すること、その他役員選挙に関わる対応については小職に一任してほしいとし、今回の選挙は日本の21世紀の医療の行方を決定する大事な選挙であると認識していると述べ、全会異議なく了承を得た。

続いての来賓挨拶では、太田 博保健福祉部長が高橋道知事の祝辞を代読した。

次に庶務・事業報告、会計報告を承認後、議案審議に入り、昨年12月8日付で辞任した藤原秀俊常任理事の補欠選挙では札幌市医師会所属の藤井美穂氏を選出した。

ついで、平成17年度の3補正予算案の提案、監査報告を受けたのち承認した。続いて、「医の倫理の高揚と医療の安全確保」「保健・医療・福祉政策への積極的対応と参加」「医師会の在り方の検討」「情報の収集、管理、提供の適正かつ効果的取扱い」の4項目を柱とする平成18年度基本的活動方針案、それに伴う一般会計(約9億9千万円)、5特別会計(総額約7億3百

万円)の予算案の提案後、予算委員会に審議を付託、その報告を受けすべて可決承認した。

当面の医政問題では、「診療報酬改定」「療養病床の再編」「医療制度改革の現状」および医療を取り巻く中央情勢全般について各担当理事が仔細説明し、道医執行部では引き続き積極的に対応していくとの姿勢を示した。起草委員会を設置し別掲の決議案が作成され、満場一致でこれを採択した。

この決議は日医・都道府県医師会、政府閣僚、政党、国会・道議会議員、道知事、道内自治体首長、「日本の医療を守る道民協議会」構成団体およびマスコミ他関係各方面に送付し実現方を働きかけている。

代議員から以下の質問があり、理事者からそれぞれ答弁が行われた。

## ◇代表質問◇

1. 中央ブロック・今真人代議員：「医療制度改革並びに過去最大の診療報酬マイナス改定等、日医執行部の対応と日医会長選挙について」(答弁：飯塚会長)
2. 道南ブロック・竹田公一代議員：「医療費の推計と政策について」(答弁：中川常任理事)
3. 空知ブロック・菅原剛太郎代議員「1.終末期医療、特に在宅医療について」(答弁者：三宅常任理事)「2.地域がん拠点病院の許可について」(答弁：長瀬副会長)
4. 後志ブロック・外園光一代議員：「准看護師における実習病院の確保(特に母性看護実習について)」(答弁：三宅常任理事)
5. 道北ブロック・牧野正直代議員：「環境問題について」(答弁：三戸常任理事)

## ◇一般質問◇

1. 札幌市・西里卓次代議員：「日医の広報活動について」(答弁：長瀬副会長)
2. 小樽市・津田哲哉代議員：「『国民皆保険制度を守る国民運動』の署名運動について」

- (答弁：赤倉副会長)
3. 札幌市・鈴木伸和代議員：「消費税損税問題（損税解消）について」(答弁：北野常任理事)
  4. 札幌市・山本秀樹代議員：「療養病床（介護療養型医療施設）の廃止について」(答弁：原田常任理事)
  5. 函館市・今 哲二代議員：「レセプトのオンライン請求の義務化について」(答弁：中川常任理事)
  6. 札幌市・瀧内慶夫代議員：「1.診療報酬改定における『在宅療養支援診療所』の創設について（承認要件緩和）」「2.医療材料費の内外格差について（格差是正）」(答弁：榊山常任理事)
  7. 札幌市・鈴木重設代議員：「適正な医療・介護報酬の改正について」(答弁：原田常任理事)
  8. 旭川市・沼崎 彰代議員：「テレビ会議システムについて」(答弁：中川常任理事)
  9. 札幌市・神田雄司代議員：「感染性廃棄物の廃棄料について」(答弁：北野常任理事)
  10. 旭川市・富山知隆代議員：「医業類似行為と医師の同意書について」(答弁：浜上常任理事)
  11. 札幌市・安井隆弘代議員：「1.領収書発行義務付けについて」(答弁：榊山常任理事)  
「2.福島県立大野病院産婦人科医師の逮捕、拘留に対する日医・都道府県医師会の対応について」(答弁：加藤副会長)
  12. 札幌市・林下忠行代議員：「保険業法改正に伴う日医年金制度継続について」(答弁：北野常任理事)
- 代議員会は午後3時32分に終了し、引き続き平成18年定時総会が開催され、代議員会で審議された事項をすべて異議なく承認可決し、午後3時33分、全日程を終了した。

## 決 議

小泉政権が誕生してから5年が経過しようとしている。「小さな政府」の実現を大義名分にして、あらゆる分野で市場原理が猛威を振るっている。政府は、構造改革の成果として、景気が本格的に回復してきたと胸を張るが、国民にその実感はない。景気回復の裏には、情け容赦のないリストラとパート労働者の増加、地方の切り捨てが着々と進められ、かつて国民の9割が中流意識を持っていた日本社会には、下流社会という流行語すら生まれ格差が広がっている。

「官から民へ」というスローガンの下での節度のない規制緩和は、マンションの耐震偽装問題やライブドア事件を契機に国民生活を根底から脅かすことが明らかになった。また、持続可能な制度の構築という美名の下での社会保障国庫支出の削減、とくに公的医療費の継続的な削減は将来に禍根を残すものだ。

われわれは、国民が安心して日々の生活を送ることができ、超高齢化社会にあっても明るく活力のある地域社会の実現を願い、医療制度に関して次の六項目を政府に求める。

### 記

- 一、患者負担は限界にきている。公的医療給付費の削減をやめ、患者負担の軽減を図ること。
- 一、医療の質を高め、安全な医療を提供するためには医療機関の健全経営が大前提である。必要な財源を措置し早期に診療報酬引き上げを実現すること。
- 一、現実の国民生活を無視した、介護難民や行き場のない高齢者を生み出す療養病床の再編・縮小策を見直すこと。
- 一、医療における消費税の損税を解消すること。
- 一、地域における財政状況には大きな格差がある。保険者の都道府県再編においては、患者の医療内容に格差が生じないように十分な財政調整を行うこと。
- 一、社会保障費削減の大義名分としての財政危機が喧伝されている。粗債務、純債務など財政状況を国際標準に照らして国民に開示すること。

平成18年3月12日

第125回北海道医師会定時代議員会